

2022 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	特定非営利活動法人 SKY 協働センター
活動テーマ	坂町の被災者・被災地コミュニティ形成のための集いの場づくりと内発的復興の取り組み活動



① 災害公営住宅の住民同士が仲良くなるきっかけづくり

平成 30 年 7 月豪雨災害の被災者が暮らす北新地地区、小屋浦地区の公営住宅で、毎月交流サロンを開催した。公営住宅の会長は、「コロナの影響もあって、日頃はおはようの挨拶を交わす程度、ドアの向こうでどんな生活をしているか分からなかった。でも今は、交流会の翌朝に、挨拶に加え交流会の話ができる。会話が増えて、となりの部屋にいる様な感じ。交流会のおかげ、感謝しかない。」と喜んでくださる。

昨年 3 月末に地域ささえあいセンターが閉所され、相談員の関わりが無くことに、被災者から悲しむ声が聞こえていた。しかし 4 月以降、相談員が SKY の交流会にボランティア参加し、継続して被災者に寄り添っている。さらに、大学生も参加してくれている。

センター閉所のように、公的支援には限界があるため、それを補完する新たな住民主体の組織がいるとの思いから SKY を設立した。あらためて、住民による支援継続の必要性をかんじると同時に、相談員と被災者のつなぎ役を担えたことを嬉しく思った。

② 地域での活動の広がり

コロナ渦で行事が中止になったので、坂地区、小屋浦地区で多世代を対象に交流会を開催した。スーパー、病院が無くなった小屋浦地区では、マルシェやバザーを開催し交流機会をつくったところ、大勢の住民が大声で話し笑顔があふれた。

坂地区では、公民館を借りて、夏休みの子どもの居場所づくりや夏祭りのイベントを開催した。小学校児童の保護者からの依頼で、7 日間で 170 名以上の子どもたちが集い、宿題やゲームをして過ごした。子ども祭りは子どもたちが企画し大人達が手伝う方式を取り入れた。みんなが役割をもって協力しながら楽しい祭りになってくれた。時期が悪くコロナ感染者増加の影響がでた小屋浦地区においても規模を縮小し、同様の居場所づくりを行った。地域住民の交流は、暮らしの安心、安全そして減災につながる。